

目次

はじめに	村上 勝三 …………… 1
目次	
全体シンポジウム 22世紀の世界哲学に向けて	
間文化的哲学—哲学全体への挑戦として	ゲオルグ・シュテンガー …………… 7
日本における「哲学」受容と自然観の転換	相楽 勉 ……………17
世界哲学構築における〈イラン〉という視座（パースペクティヴ）	永井 晋 ……………23
第1ユニット：日本哲学の再構築に向けた基盤的研究	
ワークショップ「江戸期における漢学者たちの人間観の特色—中国との比較—」	
楠本碩水の『朱王合編』について—並木栗水と楠本碩水—	申 緒 璐 ……………31
水戸学と陽明学—徳川ミュージアムの儒学関連資料の調査を中心として—	銭 明 ……………39
徳川日本の心学運動の「草の根化」の特色	
—民間文書《心学こゝろのしらべ》について—	呉 震 ……………43
東国大学校との共同研究	
東国大学校仏教大学（韓国）と東洋大学国際哲学研究センター（日本）の 共同研究報告（第2回から第4回）	佐藤 厚 ……………57
井上円了の解釈学的方法論—「奮闘哲学」を中心として	金 浩 星 ……………61
第2ユニット：東西哲学・宗教を貫く世界哲学の方法論研究	
方法論研究会	
「〔種の論理〕の可能性」研究会報告	黒田 昭信 ……………75
〈方法論研究会「哲学史のドクサを問う—〈合理論と経験論〉の再検討—」 連続研究会〉報告	大野 岳史 ……………77
〈法〉概念研究	
「〈法〉概念研究」総括と展望	沼田 一郎 ……………83
第3ユニット：多文化共生社会の思想基盤研究	
グローバルな対話の哲学	
グローバル哲学？	マルクス・ガブリエル ……………87
グローバルな権力、グローバルな世界、グローバルな哲学	ハンス・スルガ ……………95
論文	
戦後日本の学界における「儒学の日本化」問題についての考察	呉 震 …………… 107
死に向かって生きる—死の害悪、有限性、意味、不確実性に関する省察	オバーク・アンドリュウ …………… 119
ジョン・ディーのスクライミング魔術	武内 大 …………… 133
発生的現象学における自然数の考察とその構成（2） —自然主義的な学問の根源についての試論—	武藤 伸司 …………… 141

インド思想における世界構成原理と身心論 —「ナーラーヤニーヤ章」第326章および第327章を中心として— 井筒俊彦の思索を再考する：場の哲学に向けて 新実在論とマルクス・ガブリエル—世界の不在と「事実存在」の問題—	三澤 祐嗣 …………… 149 小野 純一 …………… 161 中島 新 …………… 175
訳註	
ヒュームの初期覚書、1729 - 1740 (2) 『ラクシュミー・タントラ』第3章訳註 『縁起経釈論』の「生」「老死」解釈訳註	竹中久留美 …………… 189 三澤 祐嗣 …………… 193 堀内 俊郎 …………… 203
研究成果の概要	…………… 211
概念図	…………… 215
彙報	
投稿規程	

***本書の構成について：**

本書の前半部は、日本語で書かれた原稿、ならびに、英独仏中国語の外国語原文を日本語へ翻訳したものから成る。後半部では、それらの日本語の論文・原稿を外国語（英・独・仏・韓）へ翻訳したものと、英独仏中国語の論文の原語原文を掲載している。前半と後半の原稿は同じ順序で掲載されている。